

科目名		授業形態	担当教員名	
構音・口腔機能の評価・訓練 I		講義	杉山 千尋・田中 義之・太田 信子・ 今井 絵美子・菊森 清美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
機能性構音障害例の評価、診断を通じて、構音障害の評価、診断の基礎となる音声を記述、分析することに習熟すること、訓練内容を考える前に、診断が重要であることを理解し、必要な力を身につけることを目的とする。更に、運動障害性構音障害例の観察、分析し、発声発語器官の運動、構音の問題点を抽出する方法を身につけることを目的とする。また、神鈴会(喉頭摘出者発音教室)の見学を通して、発声障害者の発声、発語の実際について理解する。				
授業の到達目標				
機能性構音障害例の音声を音声記号（IPA）で記述することができる。正常か否か、構音不明瞭の訴えが構音障害であるか否か、訓練を行うか否かを考え、判断することができる。何がどう異常なのか、自分はどうか考えるのか、自分のことばで表現することができる。運動障害性構音障害例の構音、発声発語器官の運動を観察、分析、記載することができる。喉頭摘出者発音教室を見学し、発声障害者の講話を聞き、食道発声等の方法、訓練について理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	1. 機能的構音障害の臨床について2. 音声聴取と書き取りの概略3. 音声の聞き取り（正常なスピーチ）（杉山）			
2	1. 音声の聞き取り（異常のあるスピーチ） 2. 評価の概念 3. 訓練の概念（杉山）			
3	症例の音声聞き取り（杉山）			
4	構音の誘導の方法（杉山）			
5	運動障害性構音障害ケース 呈示（太田、今井、菊森）			
6	運動障害性構音障害ケース 解説（太田、今井、菊森）			
7	運動障害性構音障害ケース 解説（太田、今井、菊森）			
8	神鈴会见学（田中）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	60%	杉山		
レポート・課題	35%	太田・今井・菊森		
小テスト				
平常点				
その他	5%	神鈴会见学・感想提出		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版	藤田郁代 監修		医学書院	
ディサースリア臨床標準テキスト 第2版	西尾正輝		医歯薬出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
言語聴覚療法シリーズ9 改訂 運動障害性構音障害	熊倉勇美		建帛社	
自由記載				
備考				